

鼠蹊部「ヘルニヤ」手術改良法

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31283

終リニ皮膚ヲ連次縫合ヲ行ツテ手術ヲ終エマシタ、手術時間ハ一時間三十分、「エーテル」消費量一五〇・ccデアリマシタ。

經過、九月二十九日、手術後一時間毎ニ「カンフル、オレーフ」油一cc宛皮下注射ヲ續ケマシタ、口渴甚シケレドモ嘔氣強イタメ大量ノ水分ヲ飲ムコトガ出來マセンデシタ。午後六時導尿セルニ約五〇ccノ茶褐色ノ尿ガ出マシタ、尿ハ弱酸性、蛋白質モ葡萄糖モ證明スルコトガ出來マセンデシタ、脈搏數ハ百二十前後、局處ニハ氷囊三個ヲ乗セテ置キマシタ、午後七時カラ數時マデニ四回ノ黑褐色ノ水様便出デ、時折放屁ガアリマシタ、夜ハ比較的不眠ノ狀態デシタ、分泌多イタメ一夜ニ二回繃帶交換ヲ致シマシタ。翌三十日カラ患者ノ狀態ハ餘リ良好デナイノデ、極力種々手當ヲ致シマシタガ遂ニ手術シテカラ第三日即チ十月一日午後四時遂ニ死亡致シマシタ、死因ハ急性腹膜炎ニヨル虛脱デアリマスガ、此ノ例ガ何故ニ助カラナカツタカト申シマス、早ク汎發性腹膜炎ヲ起シテ居ツタコトニ由ルノデアリマス、何故カク早ク腹膜炎ヲ起シタカト申シマス、腸捻轉ガ三回モアツテ其ノ爲ニS字狀部腸間膜内ノ血管及ビ神經ガ甚シク壓迫サレタガタメニ其ノ支配下ノ腸壁ニ比較的早ク壞死ヲ起シ内容物ノ滲出及ビ細菌ノ浸潤ヲ起シテ來タ事ニヨルノデアリマス、ソノ證據ハ本教室デ手術サレタル第一回ノ例ハ發病後手術迄ノ時間ガ本例ヨリモ短ク十七時間デアツタ事ト、且ツソノ腸捻轉ガ二回デ、三六〇度捻轉シテ居ツタニ過ギマセンデシタカラS字狀部腸間膜ノ血管等ノ壓迫ガ甚シクナリ、從ツテS字狀結腸ノ榮養障碍ガ本例ヨリモ甚シクナカツタ事ニ因ルノデアリマス。デスカラ、斯ル際ニハ一刻モ早ク手術スベキガ適當ト思ハレマス。

鼠蹊部「ヘルニヤ」手術改良法

金澤醫科大學附屬醫院泉外科教室

大庭九一郎

從來諸大家ノ鼠蹊部「ヘルニヤ」ノ皮膚切開ハ常規トシテ前上棘ヨリ一—二橫指隔レタル點ヨリ鼠蹊管ノ方向即チ外斜腹筋纖維ノ方向ニ一致シテ外鼠蹊輪迄ノ切開ヲ施サレテキマス。

東京ノ林蔭氏ノ如キハ左右前上棘ヲ連結セル橫走皺襞ニ切開ヲ加ヘラレテキル様デアリマス。

吾ガ教室ニ於テ次ノ如キ皮膚切開ヲ施シタル六例ニ非常ナ好結果ヲ得マシタ。

其ノ皮膚切開法ハ「前上棘ノ稍々下方ヨリ一—二橫指隔レタル點(A)ト外鼠蹊輪トヲ連結セル直線ノ二等分點(B)ヨリ約四指ノ線ヲ白線ニ鉛直ニ引キ終ツタ點(C)即チ此ノA、B、Cノ三點ヲ通過スル弓狀ノ皮膚切開ヲ施スモノデアリマス。

從來ノ皮膚切開法ト比較シテ有利トスル點ハ

- 一、不潔部位ヲ避ケタルタメ化膿スル危險ヲマスカレルコト。
- 二、理想トサレテキル林氏ノ如キ橫行切開法ヨリ手術野大ナルコト。
- 三、一番多クノ外科醫ガ賞賛スルバツシニ—氏根治手術法施スニ適合スルコト。

附圖一枚

盲腸移動症ト蟲様突起炎トノ關係

三 浦 外 茂 治

蟲様突起炎ノ外科的療法進歩ニ連レテ手術ニヨル蟲様突起ノ生體的狀態ノ觀察ガ愈々精確トナルニ從ツテ次ノ様ナ二ツノ大ナル疑義ヲ醫學者間ニ捲起セシメタ。即チ臨床上可ナリ著明ノ蟲様突起炎様症狀ヲ呈セルモヲガOperationノ結果 Appendice シン何等之ニ一致スル病變ヲ呈シテ居ラナイ事ノ可ナリ屢々アルコト、蟲様突起炎ニ手術的ニ蟲様突起ヲ剔出シタル後尙蟲様突起炎様症狀ヲ後遺シ局處ノ疼痛再發スルコト往々ナルコトデアル。